令和３年度秋田県立美術館運営協議会（議事録要旨）

１　日　時　　令和３年１０月２０日（水）　午後２時から午後３時３０分まで
２　場　所　　秋田県立美術館　１階レクチャールーム
３　出席者　　秋田県立美術館運営協議会委員　７名
　　事務局（生涯学習課、公益財団法人平野政吉美術財団）５名
４　議事概要
（１）開会

（２）生涯学習課長あいさつ
　県立美術館の運営を委託している立場から、更に県民に親しんでもらえる美術館になるよう、この協議会を最大限に活用したいと考えている。
　県立美術館が新築移転・本オープンしてから丸８年となり、その間約 86 万人の方々をお迎えしてきた。開館以来、美術館の基本方針を軸にして、展覧会や教育普及など各種事業に取り組んでいる。令和元年度末からは新型コロナウイルス感染症対策のため難しい対応を迫られているが、今後はウィズ・コロナ、アフター・コロナを見据えた各種事業の運営が求められてくるものと考えている。

（３）公益財団法人平野政吉美術財団業務執行理事（秋田県立美術館長）あいさつ
　一昨年は、藤田嗣治の没後 50 年ということで、パリや東京などで大規模な回顧展が開催され、多くの来場者でにぎわった。東京会場へは平野コレクションからも作品を貸し出しており、注目を集めていたと聞いている。また、今年度は神奈川のポーラ美術館で開催された展覧会にも作品を貸し出しており、コロナ禍が落ち着いたらぜひ秋田に伺いたいという声も受けている。県立美術館の企画展では、310 円で平野コレクションを観覧できる。ぜひ秋田で藤田作品を観ていただきたい。平野コレクションの所蔵品数にも限りはあるが、学芸員が様々に工夫を凝らして展示している。また、出前授業やワークショップなどの教育普及事業時も力を入れている。今後ともぜひ当館の活動を見守っていただきたい。

（４）出席者紹介

（５）報告
①秋田県立美術館について
・県立美術館の基本方針について
・平成 25 年度（移転開館）からの入場者数の推移について
②令和３年度秋田県立美術館事業の概要について
・令和３年度の事業（特別展、企画展、教育普及事業）について
③ミュージアム活性化事業について
・ミュージアム活性化事業で開催する特別展の方針、評価について
・令和４年度の特別展計画について
・特別展の３カ年計画について
④その他

・特になし

（６）協議（意見交換）（○：協議会委員　■：事務局）

○報告にあった令和３年度の特別展について、県単独で開催したもの、実行委員会を組んで開催したものがあり、多くはメディア関係と組んでいるようだが、構成メンバーはどうなっているか。

■「怖い浮世絵展」は、ABS秋田放送・県・財団、「MINIATURE LIFE展」は、AAB秋田朝日放送・県、「ルーヴル美術館の銅版画展」は県単独、「木村伊兵衛回顧展」は、秋田魁新報社・県・財団である。

○企画展は財団単独での開催か。

■そうである。

○令和３年度は実行委員会方式による特別展が３本で、県単独で行っている特別展が１本ということだが、いつもこのような割合か。

■概ねそうである。

○メディア関係が主催に入ると広報面で有利かと思うが、県としてどのように考えているか。また、実行委員会方式による特別展を開催する際に、どのように案を出しているか。

■広報面については多大な効果がある。新聞紙面では５段広告を始めとして、特集記事などでも取り上げてもらえる。テレビ番組では、特集番組やニュース内での紹介もある。経費についても協議の上、出資し合うので、県単独で開催するよりも双方の負担は小さくなる。

企画案の出し方については様々なパターンがあるが、大規模展については、企業側からの持込みが多い傾向にある。財団からも企画を提案し、企業側に検討してもらっている。いずれのケースも、先ほど示した「ミュージアム活性化事業の方針」に沿って内容等を判断している。

○テレビ局勤務時代、県立美術館の藤田作品に関する番組製作に関わらせてもらったが、藤田作品には著作権料が発生する。展覧会を紹介したくとも、１つの作品を取り上げるにつき数万円で、複数紹介するとなると数十万かかる。こうなるとどうしてもハードルが高くなる。もっと県立美術館をＰＲするために、ここを解決する方法はないものかと常々感じている。

半世紀近く千秋公園内にあった旧県美が移転する際に、ＪＲ東日本のデスティネーション・キャンペーンがあり、吉永小百合さん出演のＣＭが流れたところ全国的に大きな反響があった。自分としては、これほど価値のある美術館や作品の存在が、それまで広く知られていなかったことに、逆に驚いたという面もあった。

また、先ほど話題にあがっていた展覧会広報（テレビＣＭ）については、県単独でＣＭを流すと非常に高額になるが、メディアも主催に入ると自社枠が使えるため、大量のＣＭを安価に流すことができるようになる。それはメリットであると思う。

■著作権料の問題については（著作権協会を通じて著作権者に納めることになっているため）なかなか解決は難しいものと考える。

○理解はしているが、何とかしたいものである。

■確かに、著作権料については、財団の藤田作品をデジタルサイネージで１点流しただけで数万円かかるなど、大々的な広報のネックになっている。

以前、著作権協会にその点について伺ったところ、時事報道だと良いということを聞いた。ぜひ各局のニュース等で取り上げてもらいたい。

○《秋田の行事》移転を取り上げた際には、移転当日に限り、館長を通じて著作権協会に交渉してもらい、その上でＯＫをもらったことはあった。

○昨今の大学生は、新聞も読まずテレビも観ないという学生が多い。そういった若者でも、県立美術館での鑑賞授業（小学校免許取得のための授業）で、生の作品を観るとやはり感動している。《秋田の行事》にはドラマがあるため、学生が学芸員の解説を熱心に聴いていられるのだと思う。

一方で、昨年の「戸嶋靖昌展」の際は、館のＨＰ等に様々なコンテンツ（動画等）があった。今の学生にはそうしたデジタル・コンテンツがあった方がアクセスしやすいのではないか。広報物にもＱＲコードがあって、展覧会ＨＰにアクセスして、様々な情報が得られるという仕組みがあれば、若者のアクセスは増えるように思う。それが来館に結びついてくれれば良い。

今、大森山動物園の来場者数が増えているが、一つには、秋田市と秋田市造形教育研究会がタイアップして動物の写生会を行っていることがあると思う。美術館でもクロッキーみたいなことをやり、館内に作品が飾られると、それを家族が観に来るという流れが生まれるのではないか。

■「美術館教室」として「デッサン教室」などを開催している。秋田市造形教育研究会などでも、県民ギャラリーを発表の場として使ってもらえれば有り難い。

○たくさん教育普及事業があり、中でも館長自らが講師となっている美術館教室があって魅力的だと思う。館長と触れ合えるという特別感がある。休日に開催されていることが多いが、平日にあれば、特別支援の子どもたちを連れてきたい。

■１時間半ほどでできることはたくさんある。

○子育てをしている親の立場から言うと、子どものことはなるべく連れてきたいと考えている。子どもたちは、美術館に連れてきてもらったことなどをよく憶えている。ただ、騒がしくしてしまうので気後れしてしまう。２階・３階ギャラリーは無理かもしれないが、１階の県民ギャラリーなどで、できれば「この時間帯は親子連れで来ても大丈夫ですよ」というような曜日や時間帯があると来やすい。

○例えば、親子連れを対象として、平日の午前中などに「話し声などをあまり気にせず美術館を楽しめますよ」というような時間帯があってもいいのかもしれない。

○手話で聴ける作品解説という取組があるが、その点についてはどうか。

○嬉しいことだと思う。障がいを持つ方々にとって一つの媒体になると思う。

○県立美術館だけでなく、赤れんが郷土館や千秋美術館など、市内には県民の財産がたくさんある。なるべく活用していきたいと考えている。

■確認だが、子ども連れでも気軽に訪れられるスペースや時間帯があると良いということか。

○３階ギャラリーなどでは、ちょっと気を遣うところがある。

■この建物は非常に音が響く。足音でさえ気になるという方もいる。

○安藤建築の特徴かもしれない。

○教育普及活動にも良く取り組んでいると思う。

○ワークショップなどに、若い講師の先生方を起用しているのは非常に良いことだと思う。

○ミュージアムコンサートの内容も良い。コロナで中止になるイベントが多かったが、対策を取った上で各種イベントを開催していくことも大切だと感じた。

■《秋田の行事》の前で「太平山三吉神社 梵天奉納祭 三吉節」を披露するという企画は３年前から練っていた。昨年はコロナで中止となったが、今年度はぜひ開催したい。

○美術館の来館者数にメディアでの広報効果があることは、美術館から報告のあったデータを見ても明らかである。特別展だけではなく、県民ギャラリーでの他のイベントなどももっと宣伝して欲しい。情報が入らないと人は動かない。

○ワークショップの多くは、コミュニティとの関係を強くしてくれる。自分が子どもの頃、市の美術館は毎週土曜日に子どもたちを対象とした無料のワークショップを提供していた。集まった子どもたちは熱心に活動し、美術に対する愛好心が育まれていたと思う。

○地元のアーティストを支援するために、美術館ができることについて考えて欲しい。例えば、シカゴ美術館には「セールス＆レンタル」ギャラリーがあった（地元アーティストの作品をレンタルできる仕組み）。いくつか問題が見えたので、あまり良い事例ではないかもしれないが、いずれにせよ、活気ある芸術コミュニティを育てることが重要だと考える。

■令和４年の特別展のラインナップについて、御意見をうかがいたい。

○「川瀬巴水展」は非常に良いと思う。以前、美郷町でも開催されていた。これはＰＲして欲しい。

○「岸田劉生展」も良い企画である。できれば小中学生に呼びかけて「自画像コンクール」などを企画して欲しい。岸田について、秋田での認知度は高くないかもしればいが、非常にもったいないと思う。岸田の作品は美術の教科書でも紹介されている。若い人たちにもぜひ生で観てもらいたい。

○「川瀬展」の作品はどこから借りてくるのか。

■企画会社を通じて借用してくる。本展は、現在、東京の美術館で開催されている。老舗である木版美術画舗の所蔵と聞いている。

○赤れんが郷土館にも新版画の良い作品がある。

○県立美術館と赤れんが郷土館で、関連企画として何かタイアップしても良いのでは。

○今年度開催された、県立大の込山先生、公立美大の小杉先生が監修した「秋田の建築展」も良い企画だった。ぜひこれからもこういった企画展に取り組んで欲しい。

■本日は貴重な御意見を賜り、大変有り難かった。次回は２月に、書面開催を予定している。今後ともぜひ美術館に御意見をお寄せいただきたい。

（７）その他

・特になし

（８）閉会